

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	5
施設名	葛飾区青戸保育園
施設所在地	葛飾区青戸5-9-10
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

土・自然
～土に触れ、“光る泥だんご作り”へ～

<テーマの設定理由>

夏の遊びの中で、年長児を中心に幼児クラスが泥んこ遊びを楽しんでいた。年長児クラスは、丁寧に泥だんごを作り並べてたが、関心を持った乳児クラスの子が触れることで壊れてしまうことがあった。それでも繰り返し作って遊んでいた姿が見られていたので、“光る泥だんご”作りを通して、様々な土に触れていく「土・自然」をテーマとした。

2. 活動スケジュール

令和7年7月～9月：年長児を中心に泥んこ遊び
令和7年7月：テーマを決定
令和7年7月12日：実施計画作成
令和7年10月・1月：必要物品等実施準備
令和8年1月～3月：実施
（内訳：1月1回お話し会、2月～3月随時泥んこづくり、3月最終お話し会）
令和8年3月下旬：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

たらいに“光る泥だんご用”の土として荒木田土・黒土を入れ、いつでも取り組めるように園庭側のベランダに置き、園庭を実施場所に設定。
興味を持ったところで“光る泥だんご”について年長児に説明をして活動をスタート。
荒木田土・黒土・たらい・バケツ・水・ビニール袋・サインペンを準備。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

<泥んこ遊び>

7月～9月に砂場で年長を中心に幼児クラスが泥んこ遊びを楽しむ。

泥んこに抵抗を示す子は足から触れる。ダイナミックに全身泥につかる姿もあり。色からイメージして茶色の飲み物や食べ物を作って並べて遊ぶ。後半は、川や橋など構成的な遊びに変わっていく。

<光る泥だんご作り>

1月21日

・荒木田土をたらいに入れて準備をし、年長児に“光るどろだんご”作りについて話をする。

2月

・荒木田土を細かくする↓荒木田土と砂`水を混ぜて泥だんごの芯を大人が作り`年長児がサラサラの荒木田土をかけて泥だんごを作る。→何日か砂をかけるのを繰り返す。→泥だんごを磨く。→“光る泥だんご”の完成。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

<光る泥だんご作り>

・荒木田土、黒土をたらいに入れて準備をしてベランダに置いておくと、すぐに「これ何?」「何に使うの?」との声が聞かれ、興味を持った。

・さらに“光る泥だんご”作りについて話をする「やる!」「どうやるの?」と関心を持ち、準備のために砂を細かくする必要があると頼むと、何人かでたらいを囲み、頼まれたからやらなくてはという感じで取り組んでいた。その際、友だちとおしゃべりしながら楽しんでた。

・泥だんごの芯作りでは、どうやって作るのかと大人の作る様子を見ながらも、早く自分の順番が来ないかと期待が大きく急かしてくる子どもたちであった。(次年度はこの部分も子どもたちに任せていきたいと思う)

・芯に砂をかけていく中で、「ひび割れてきた」「色が変わったよ」「硬くなってきた」「光らないね」と砂の入ったたらいを数人で囲み光ることに期待感を持って毎日取り組んでいた。

・泥だんごを磨く工程では、手に砂をつけて、掌で優しく「いいこいいこ」と擦るようにする。力加減を調整していたが、中には壊れてしまう子もいて作り直しをした。ここでも一人で取り組むのではなく、友だちと「ちょっと光ってきた」とおしゃべりをしながら楽しんでた。

・その様子を見て、乳児クラスも「何してるの?」「やりたーい」と挑戦するが、1回で終わってしまい、年長のように最後までやり遂げることはできなかった。

・3月30日に完成を喜び合い、「宝物にしてね」と保育士がかけた言葉から大切に持ち帰り、保護者にも「捨てないでね」と伝えていたことを保護者から聞いた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・泥だんご作りは、1日で完成できるものではなく、毎日少しずつ取り組まなければならないため、“作りたい”という意欲と根気が必要であり、やり遂げた年長児に対してその力を感じることができた。
- ・今回、取り組みが遅くなってしまったので、最初のとりかかりで保育士が芯となるだんごを作ったが、取り組みを早くすることで最初から最後までを子どもたちでできたのではないかと思う。
- ・年長児を対象にしたが、年長の姿に下のクラスも関心を示し、同じように挑戦した。保育園ならではの自然な異年齢交流へとつながった。
- ・泥だんごで使用した荒木田土・黒土、泥んこ遊びの砂場の砂の他、腐葉土・培養土と様々な土の違いや、用途についてまで関心を広げ、花壇作りへとつなげていきたかったが、そこまではできず、次年度につなげたい。
- ・やはり、子どもたちは水、土、泥んこは本当に大好きであり、引き続きこういう体験を楽しんでいきたい。